

表紙の人



谷 茂則 (たに・しげのり)

奈良県北葛城郡王寺町 在住
谷林業株式会社 代表取締役社長
(一社)大和森林管理協会 理事

大学卒業後、父親が代表を務める谷林業(株)に入社。谷林業(株)は奈良県南部の吉野郡内にスギ・ヒノキの人工林を約1500ha、奈良県北部の北葛城郡周辺に約30haの雑木林を所有・管理している。

約10年をかけて同社の財務基盤を整理し、体質を強化。その後、作業道開設を含め実際に現場で従事し、林業関係の資格を10以上取得。

また、林業家としての仕事も継続しながら、「町で木を使う人がふえるしくみづくり」、林業を社会システムに組み込むことの必要性から都市部での活動も開始。若くして意欲のある人材を広く募集し、同社にこれまで20歳代、30歳代の若者を新たに社員として採用してきた。「陽楽の森プロジェクト」発起人。日本林業の未来を信じ、斬新な視点で多角的な事業に取り組み、人材の発掘を図っている。

「表紙の人」は、林業家で多角的な事業に取り組む谷茂則さんです。全世界で拡大した新型コロナは、一極集中・過密型都市のリスク、グローバル化のリスクを顕在化させました。これまで、掛け声・建前であった「SDGs」や「ESG」「地域循環共生」といった考え方についても、取り組みが加速しています。谷さんは、これらの動きに先駆けて、人と自然がつながり、木材が町で活用される社会づくりを目指してきました。自社保有の「陽楽の森」での森びらき活動はその象徴的なものです。

そんな実践を行う事業家である谷さんが、今、地域の奈良中央信用金庫と共に取り組んでいるのが環境省の「ESG金融促進事業」による地域循環の共生活動です。良質な森林資源“吉野材”を活用した新たな居住様式の創造による地方創生奈良モデルの確立を目標に掲げ、新たな社会実験賃貸住宅の取り組みを始めています。

コンセプトは、グルグル廻りつながる家。場所は、奈良県北葛城郡王寺町周辺。大都市に通える便利なちょっとした地方都市の郊外、里山との緩衝地帯、田畑も広がる場所にその賃貸住宅を計画しています。地域の木材をふんだんに使った木造で、地域の材料を中心に計画。カッコいいけど、どこかホッとする雰囲気が漂う。薪ストーブや薪ボイラー等の木質バイオマス、太陽光や風力を利用した熱供給や発電設備やインフラも整備。貸農地や貸里山も準備されている等々自然とつながることに興味がある人の理想を実現したような賃貸住宅です。

地方創生奈良モデルの確立には、もっと町で木材、出来れば無垢材を活用して欲しい、と谷さんは我々建築士に訴えかけます。10月からは薪ストーブの販売も開始するそうです。森(山)側の人と町(建築)側の人と一緒に地域社会を考えていき、コロナ禍で始まる新しい時代が、安心して暮らしていける幸せな社会になることを谷さんは願っています。

(記：情報・広報委員会 折目貴司)



出典「さとびこころ」HP

「土會奈良」前号では、令和2年度奈良県建築士会事業予定表を掲載しましたが、士会員より各事業がどのような活動に取り組んでいるのかを知りたいとの声をいただきました。そこで本号では、主だった事業をご紹介しますと思います。

はじめに

○会長 挨拶

(一社) 奈良県建築士会は、建築士会員の資質向上や親睦を図るとともに、建築士の職能を活かし、地域社会の課題や現代社会の課題等に寄与する事業に積極的に取り組んでいます。主な事業は、次の通りです。

- ① 気候温暖化対策や奈良県産の木材の需要拡大のための建築物の木造化・木質化の検討
- ② 奈良県内の数多い文化財建造物の発掘及び登録有形文化財登録や保存活用の支援
- ③ 奈良県内建築物等を対象とした奈良県の景観に関わる賞の継続
- ④ 近年問題となっている空き家の利活用の推進
- ⑤ 歴史的建造物の利活用の相談会の開催等

もちろんこれ以外にも多くの事業を行っています。今年は新型コロナで事業があまり進められない状況にあります。概要につきましては、各担当から報告します。

(一社) 奈良県建築士会 会長 米村 博昭

奈良県産材利用促進への取り組み

① 木造公共建築物等推進タスクフォース会議

令和2年5月21日に奈良県建築士会で新たな組織として設立され、委員数は14名(設計者、施工者、材料供給者)で構成されています。

一言で言えば、奈良県奈良の木ブランド課の事業を側面からサポートする組織(タスクフォース)です。

すでに開かれた会議では、将来県営住宅を木造で設計した場合の工事コストを約1ヶ月間でとりまとめるよう依頼を受け、取り組みました。具体的には桜井県営住宅一期(RC構造)プランを参考に、主体構造を木造に置き換えた場合のプランニング、構造設計、そして、工事コストの算出を各委員の協力のもと行い、報告することが出来ました。

木造で公営住宅設計は可能です。工事費も安く抑えることが出来ました。耐久性・遮音性の確保等が難しい問題です。特に遮音性を上げる工夫はかなりのマニアックなテーマです。折角、木造を主体としているのに、仕上げ材下地に耐火ボードを用いてしまうと木造の雰囲気前面に出せないのが残念です。これについては、発注者も交えて今後議論する必要があります。

また、奈良の木ブランド課で地元材の樹種、供給量、品質、流通コストを調査したところ、奈良県内木材流

通上の地域性が在り、市場が固定化されていて流動性がないとの見解をいただきました。つまり公共物件で県内産木材を使用する場合、木材関係業者が固定化され、公平性が保てないということです。また設計者においては、公共案件の設計事例が少なく、木造化した場合の所作(納まり、雨仕舞等の工夫、遮音対策)を理解した設計者が少ないことから、今後は事例学習の機会を設け、工務店(大工さん)との連携を持つていくことも必要であるとの意見も出てきています。

今後、タスクフォース会議としては、これを機会に、公共建築物を木造とする設計ができるように資質の向上を目指し、施工者・木材関係者との情報交換できる場所作りに取り組むと考えています。

木造公共建築物等推進タスクフォース 座長 中本 明

歴史的建造物等を支援する

② ヘリテージ支援事業での取り組み

当士会のヘリテージマネージャー(歴史的建造物専門家、以降HMと言います。)の養成は、2010年から始まり113名が誕生しました。全国的にHMが認識される中で、他府県の研修にも参加しながら交流をしています。

2013年に「奈良ヘリテージ支援センター」を設置しました。奈良市との協働で「奈良市の近世・近代の歴史的建造物の掘り起こし事業」を2014年~2017年に「富雄地区」「平城地区」「帯解地区」「明治地区」を調査し、地元で報告会を開催しました。また県立図書館情報館でも赤膚山元窯保存会と共催で展示も行いました。



(報告会の様子)

登録文化財の申請書作成支援も2019年度桜井市内で2件、橿原市内で1件実施を致しました。

次年度は、万葉まほろば線の駅舎活用の気運があることから、駅舎見学ツアーを実施し、地元活性化に繋がりたいと考えています。また、登録文化財の申請支援等、歴史的建造物の保存・活用・改修への積極的な介入に加え、行政と連携した活動を進めていきたいと考えています。

奈良ヘリテージ支援センター 紀本 澄男

さらなる景観デザイン賞へ

③ 奈良県景観デザイン賞について

奈良県景観デザイン賞は、奈良県の景観を魅力的にしている建物・修景を設計・施工されている方や、活動に取り組んでおられる方々の努力を称え、景観についてより広く県民の方々に知って頂くことを目的として表彰しています。

本来であれば、今年度は本賞の開催年度でございますが、より良いものにしたいという正副会長の意向をうけまして、今年度の開催を見送り、来年度の開催に向けて企画を進めております。

我々建築士は、地域を魅力的にする活動の一翼を担っていることは言うまでもなく、主体者として、その活動を具体的な手法で継続的に行い、また、その能力を上げていくことが求められています。来年度の奈良県景観デザイン賞は、全国各地で開催されているコンテストとは一線を画し、この地域を魅力的にしている場を創出している作品や取組を表彰し、それらの存在を多くの人々に知ってもらえるような企画にできればと考えておりますので、ご期待ください！

教育・事業委員会 委員長 城田 全嗣



空き家問題に対応する

④ 空き家対策、利活用の推進について

近年、人口減少や既存住宅の老朽化、社会的ニーズの変化等に伴い、適切な管理が行われていない空き家が増加しております。平成26年に「空家等対策の推進に関する特別措置法」が設立され、市町村が空家等対策を推進するため「空家等対策協議会」を設置、建築士会から建築の専門家として協議会委員が推薦されました。空き家の利活用も含め多くの問題に対応していく上で、多くの情報を共有する場として空き家対策部会が発足しました。

県内の協議会の進捗状況や問題等の報告をはじめ、今後多岐にわたる専門知識や能力が必須となることから、「既存住宅状況調査技術者」を対象とし、これから求められる建築士の新たな業務領域の拡大を見据え、空き家の利活用にも対応できる人材育成のための講義と現地実習（空家の調査実習と改修現場の見学）の研修会を行ってきました。今後も空き家問題について様々なことに対応できるよう研修会等を継続していけたらと考えております。



(改修事例の現場見学)

空き家対策部会 小笠原 香代

歴史的建造物の利活用

⑤ 歴史的建造物の利活用について

住まいまちづくり委員会では歴史的建造物の利活用を進めるため、

- (1) ヘリテージマネージャー（以下、HMという）の育成及びスキルアップ講習会の開催
- (2) 建築基準法第3条の適用除外規定を特定行政庁の建築審査会が審査されるにあたり、専門的見地から調査・検討し意見する歴史的建造物委員会を昨年度設置
- (3) 県及び市町村との連携・協働による歴史的建造物の調査事業実施
- (4) HMの活動推進のため、奈良ヘリテージ支援センターの設立などを行って来ました。

(1)については、新型コロナウイルスによる講習会等の自粛により昨年・今年度とも開催できていませんが、自粛状況の推移を勘案しながら、国の助成金等を利用して開催できるよう検討しています。

(2)については、奈良市が「奈良市歴史的建築物の建築基準法適用除外に関する条例」を令和元年10月10日に制定、令和2年4月1日より施行されています。条例を適用する具体的な歴史的建造物があった時点で、歴史的建造物委員会が活動することとなります。また、県及び他市町村が建築基準法適用除外の条例化を進めるような活動・広報も必要と思っております。

(3)については、奈良市との協働事業は一旦終わっています。今年度は、橿原市から無償の協力依頼のあった、八木における解体予定の町家の調査を行う予定です。このような協力により、今後も調査費用を受けられるような県市町村との協働事業を掘り起こして行くことも必要と考えています。

(4)については、桜井市内、橿原市内で登録文化財への登録のための調査・所見作成等を行ってきたところです。また、JR万葉まほろば線沿線の駅舎で地元が保存活用を検討している所があります。地元へ協力・協働していく一環として、支援センターにより駅舎及び周辺まちなみへの理解を深めるための見学会を開催予定しているところです。



(JR 駅舎の登録有形文化財調査実習状況)

今後も建築士会の委員会活動として、歴史的建造物の利活用に寄与するよう活動して参ります。

住まいまちづくり委員会 副委員長 高安 秀和

今回、各担当者から紹介の事業は以上となりますが、他にも青年委員会、女性委員会、制度制定委員会等でのそれぞれの事業があります。より多くの士会員にご参加・ご協力いただきますよう心よりお待ちしております。

お知らせ

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会

(更新及び新規登録)

開催日：令和3年1月14日(木)

会場：奈良県文化会館 小ホール

※詳細、申込については後日ご案内差し上げます。

※会場へはなるべく公共交通機関をご利用下さい。

- 入会
- | | | |
|-------|---|------|
| 石井 智子 | 様 | 桜井支部 |
| 中村 剛 | 様 | 桜井支部 |
| 森岡 秀 | 様 | 桜井支部 |
| 吉藤 光雄 | 様 | 桜井支部 |
| 向川 智己 | 様 | 吉野支部 |

●賛助会員

赤庄産業 株式会社

よろしくお願いたします。

編集後記

2020年は、日本にとって記念すべきオリンピック・イヤーになるはずでしたが、年始に世の中が、現状の様に厳しい状況に陥っていると誰が予測出来たでしょうか。新型コロナウイルスの流行は未だ衰えを知らず、全世界では累計感染者数4060万人・死者112万人(10月22日WHO発表)。国内でも累計感染者数9万3千人・死者1600人(10月22日厚生労働省発表)を超えています。

我々もステイ・ホーム間は、職場に行けず、子供達は、学校や幼稚園・保育園に通えず、劇場、映画館、店舗等

は閉まり、これまで当たり前だった人々との付き合いが出来なくなり、「ソーシャル・ディスタンス」と「オンライン・テレワーク」の付き合いに変わりました。今後どうなるか、不安や心配で頭がいっぱいになります。国家の、給付金等は有難い事ですが、出来るだけ早く新型コロナウイルス・ワクチンを開発・完成させて頂き、従来通りの生活に戻り、過去の歴史になることを祈っています。

(記：松尾憲治)

11月

- 3日(火) ● 文化の日
10日(火) 既存住宅状況調査技術者講習(更新)
18日(水) 監理技術者講習
23日(月) ● 勤労感謝の日

12月

- 2日(水) 建築士定期講習(奈良県産業会館)
3日(木) 二級・木造建築士試験合格発表
8日(火) 既存住宅状況調査技術者講習(更新)
16日(水) 監理技術者講習
25日(金) 一級建築士試験合格発表
28日(月) 事務局仕事納め
29日(火) 年末年始休業
(~1月3日迄)

士会奈良 通巻634号

令和2年11月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikai.or.jp

発行責任者 米村博昭

編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

情報・広報委員会

委員長	福田 成生	
副委員長	松田 七彦	宮浦 重彦
委員	中元 綱一	伊藤 吉郎
	門脇 直也	折目 貴司
	松尾 憲治	大倉 克之
	小西 直樹	山崎 修裕
	小松原寛俊	洞 尚樹
	押部 誠	

奈良県のストレート合格者のおよそ9割は総合資格学院の当年度受講生!

令和元年度 1級建築士学科・設計製図試験 (設計製図試験 12月19日発表)

奈良県
合格者占有率

No.1

1級建築士試験

奈良県 ストレート合格者占有率

88.9%

奈良県ストレート合格者9名中、当学院当年度受講生8名

令和元年度 1級建築士 設計製図試験 (12月19日発表)

奈良県 合格者占有率

85.7%

奈良県合格者28名中、当学院当年度受講生24名

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会(No.1表示に関する実態調査報告書)に基づき掲載しております。 ※令和元年12月19日に発表された、令和元年10月13日実施会場の1級建築士設計製図試験の結果に基づきます。 ※道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数、(公取)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科別ストレート合格者とは、1級建築士学科試験に合格し、同年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 <令和元年12月19日現在>

開講
迫る!!

令和2年度 1級・2級建築士
学科対策講座

受講生
募集中!!

お申込みは
お早め!

1級・2級 建築士

構造設計
1級建築士

設備設計
1級建築士

建築設備士

インテリア
コーディネーター

1級・2級
建築施工管理技士

1級・2級
土木施工管理技士

1級・2級
管工事施工管理技士

宅地建物取引士

賃貸不動産
経営管理士



総合資格学院

学院長 岸 隆司



総合資格

検索

Facebook (販売資格)で検索

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

奈良校 TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分